

輝きと美しいメロディーの競演

～ キャンドルコンサート海ほたる・かがり火 in 大澗 ～



みんなで協力し、キャンドルに点灯

8月3日、象潟海水浴場でキャンドルコンサート海ほたる・かがり火 in 大澗が行われました。これは、象潟地区地域振興協議会が地域活性化を目的として企画したもので、地域振興交付金を活用し開催されました。

イベントでは、特設ステージで、ケースケ&マサのライブや超神ネイガーショーなどが行われたほか、日没後には、砂浜に設置した約4,000個ものキャンドルを点灯。会場が幻想的な雰囲気に包まれる中、夫婦音楽ユニット「エスペランサ」の演奏が行われ、美しい音楽とキャンドルの優美な輝きに観客は酔いしれました。

芭蕉と西施が縁で始まった交流

～ 第25回西施まつり ～

8月3日、蚶満寺を会場に第25回西施まつりが開催されました。これは市国際交流協会が毎年主催しているもので、今年も中国人留学生らが多く見守るなか「西施の舞」が披露されました。

舞を披露した「西施むすめ」は、仁賀保高校1年生の、阿部真菜美さんと梶原琴音さん。2人は猛暑の中、息を合わせた艶やかな舞で、彩りを添えてくれました。

その後、象潟公民館に会場を移し、由利高校民謡部の演芸や舞踊等の催し物も行われました。中国の美女「西施」の名がこの地で俳句となった縁で続くイベントです。



「西施むすめ」が艶やかに舞う

未来のエンジニアは君だ！

ワールド・ロボット・オリンピック
～ WRO 秋田県中央地区大会 ～



試行錯誤が想像力を育てる

8月6日、仁賀保中学校を会場にWRO秋田県中央地区大会が行われました。これはロボット競技への挑戦を通じて、創造性と問題解決力の育成を目的に実施されており、小学生部門に28チーム、中学生部門に16チームが出場し神奈川県で行われる全国大会を目指しました。

大会では、指定されたボールをロボットで回収するなどの課題を解決するための組み立てや、プログラミングを行いそのタイムなどを競いました。課題に挑戦中は、チームメイトと真剣な表情で話し合いを行い、ロボットを微調整する光景が多く見られました。

アワビにイワガキ、夏の味覚が盛り沢山

～ 第18回きさかた「港」海の幸まつり ～



炭火と夏の熱気が会場を満たした

7月26日、道の駅象潟「ねむの丘」を会場に、きさかた「港」海の幸まつりが開催されました。このイベントは、にかほ市の夏の味覚であるイワガキやアワビなどの美味しさを広く知ってもらうことなどを目的として、にかほ市の漁業関係者が中心となって毎年行われており、今年は約3,000人が訪れました。

会場では、活アワビの直売やカキ飯、焼きイワガキの販売コーナーなどが設けられ、今の季節でしか食べることの出来ない海の幸を求め、多くの来場者が列を作っていました。

夏の思い出が沢山できた一夜

～ 第35回浜っ子七夕まつり ～

7月26日、金浦小学校の校庭を会場に第35回浜っ子七夕まつりが行われました。この行事は、親子や地域関係者との触れ合いなどを目的に行われているもので、金浦小学校の児童やその家族などが参加しました。

この祭りでは、町内ごとに七夕飾りを作成したり、長なわとび競争のほか、小学校創立140周年を記念したステージ発表が行われました。また、高学年児童が店主となって行われた子ども縁日では、児童が昔懐かしい駄菓子等を買って求めました。祭り終盤には、花火も打ち上げられ、夏を満喫した児童らの笑顔で溢れていました。



この夏一番の思い出ができたね

太鼓を打つ！心を打つ！

～ 第25回日本海に響け！太鼓の祭典 ～



ドン！と心に響く音

7月26日、潮風公園野外ステージで「日本海に響け！太鼓の祭典」が行われました。今年で25回目を迎えるこのイベントには、象潟九十九太鼓や仁賀保太鼓伝承会、子ども太鼓など市内7団体のほか、市外から7団体の計14団体が出演しました。

祭典では、どの団体も力強いバチさばきを披露し、日頃の練習成果を存分に発揮していました。また、「なまはげ太鼓男鹿っ鼓」の演奏では、なまはげ姿に扮した打ち手の日本海に響き渡るかのような鼓動と躍動感に、惜しめない歓声と拍手が送られていました。